

2022 年度業務実績報告書

提出日 令和 5 年 1 月 17 日

1. 職名・氏名 助教 坂部敬子2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井県立大学大学院看護福祉学研究科修士課程、授与年 平成 26 年 3 月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 公衆衛生看護学実習 I (2 単位) : 4 年生
②内容・ねらい 地域の特性と健康問題・課題について地域診断を通して理解する。 保健所実習において保健所の役割と機能、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 新型コロナウイルス感染予防対策について事前に保健所と十分話し合い実習計画を立てた。徐々に感染が拡大し、2 クール目の保健所実習が中止となり代替実習を行った。また、学生が濃厚接触者となった際は、実習施設と相談しながら、実習先の市民や同じグループの学生の感染予防を確実にを行い、当該学生に対しては不安の解消に努めた。 臨地実習前の学内実習においては、保健所管内の健康課題に基づいた公衆衛生看護活動を理解した上で実習に臨むことができるように努めた。今年度は、保健所において電話での疫学調査を体験させていただくため、学内でシミュレーションし事前学習を十分行った。 保健所実習においては、実習目標が達成できるよう実習計画作成時に実習指導者と十分な話し合いを行った。特に、疫学調査については、実施方法が日々見直されていく中、疫学調査の体験前に学生が見学と質問ができる時間を十分とってもらい、学生が不安を抱えたまま体験することがないように、また調査対象者に必要な聞き取りと支援ができるようにした。学生指導においては、見学・体験と講義での学びとがつながるように努めた。実習期間中は、看護職者としてだけでなく、社会人としても主体的で責任ある行動がとれるよう助言した。
①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 公衆衛生看護学実習 II (3 単位) : 4 年生
②内容・ねらい 市町を単位として受け持ち、個人・家族・特定集団・地域全体を視野に置いた公衆衛生看護活動を展開するために必要な能力を養う。地域の健康課題に対する公衆衛生看護活動の展開方法と公衆衛生看護の役割と専門性について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 市町では今年度も新型コロナワクチン接種が実施されるため、4~5 月の実習受け入れが困難となり 8~9 月に変更した。これに伴い、8~9 月に実習する学生人数が多くなり 2 つの実習室での実習が困難となったため、別の 1 教室で実習ができるよう環境を整えた。2 クール目の学生は、一時実習受け入れを断られたが、事業時間のみ見学する形での実習を再度依頼し受け入れていただいた。体験が少ない学生については、他の学生の体験や保健師から学んだことを学生間で共有して学びを深めることができるようにした。公衆衛生看護学実習 I 同様、学生自身と実習市町の住民の感染予防対策について、市町と十分話し合った。 市町実習の実習目標が達成できるよう実習計画作成時に実習指導者と十分な話し合いを行った。連絡調整や企画立案といった見学・体験できない保健師の仕事については、講義等で説明してもらうようにした。

<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 公衆衛生看護技術Ⅰ（地域診断）（1単位）：3年生</p>
<p>②内容・ねらい 公衆衛生看護活動の展開に必要な地域診断について演習を通して知識・技術を習得し、理解を深める。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 2月末から3月初旬にかけての集中講義である。一般入試前期日程と後期日程の間に開講する授業であり、図書館棟第1共通情報演習室が使用できる場合とできない場合を想定した準備を行い、対面で実施する授業日と自宅でのZoomによる授業日を組み合わせて実施する。紙媒体の資料等は、授業の初日にすべて配布する。 対面授業では、既存の衛生統計資料や保健医療に関する資料等を図表化・分析する知識・技術について助言し、公衆衛生看護学実習Ⅰにおける地域診断につながる学習となるよう努める。また、学生が実習する市町を理解し、関心が持てるようにする。図表作成や分析に時間がかかる学生などには、丁寧に個別指導を行う。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 公衆衛生看護技術Ⅱ（個人・家族）（1単位）：3年生 ※科目の主担当</p>
<p>②内容・ねらい 乳児家庭訪問における個人・家族支援の過程と実際、支援に必要な知識・技術と方法を理解する。 幼児健康診査の問診・指導場面における発育・発達のアセスメント、保健指導に必要な知識・技術と方法を理解する。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 一般入試前期日程と後期日程の間に開講する授業であり、自宅でのZoomによる授業を中心に実施する。紙媒体の資料は、1月中および授業の初日に配布する。 乳児家庭訪問の事例を通して家庭訪問の流れと家庭訪問に必要な知識・技術について学習し、実習で見学する家庭訪問場面で学びを深めることができるようにする。また、今年度の実習もコロナの影響を受け、同行訪問ができた学生の割合は18.5%であったため、次年度も同様であると考え、実際の家庭訪問場面がイメージできるような演習内容にする。 乳児家庭訪問および幼児健診の事例は、国家試験の問題傾向も見ながら見直していく。 昨年度の演習の問題点（学生の提出課題に対する解説が不十分）については、実習初日に解説することで改善できた。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 公衆衛生看護技術Ⅲ（集団・組織）（1単位）：3年生 ※科目の主担当</p>
<p>②内容・ねらい 集団を対象とした健康教育を企画するために必要な技術を習得する。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 4年次の市町実習における健康教育は、健康教育の対象（住民）や方法（対面でグループで実施）を限定しないで健康教育実施までの一連の過程を体験することとし、これに繋ぐ演習を実施する。資料はすべて、公衆衛生看護技術Ⅱの初日に配布しておく。 演習開始までに実習施設と調整し、健康教育の対象・場を決定する。演習では、まず各自が健康教育の対象・場の理解、健康課題の把握をする。次に、対面でグループワークを実施し、グループで一つの健康課題を決定する。その後は、各自が健康教育の目的・目標の設定、教材の絵コンテ作成を行う。グループワークの学習を充実させる。</p>

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
卒業研究（3単位）：4年生

②内容・ねらい
科学的思考力を養い、自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
研究発表までの一連の過程を指導した。
指導の際は、今後、学生が研究に取り組む際に必要な基礎的な能力が身につくよう指導した。
特に、倫理的配慮・倫理審査に関して説明・指導を丁寧に行った。その際、今後、就職先で実際に研究を行う場合の進め方が具体的に理解できるような説明を加えた。
学生が明らかにしたいと考えることを大事にし、学生が主体的に進められるよう必要な助言を行った。

(2)その他の教育活動

内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等（ポスター発表）	
1) 地域で生活する高齢者の通いの場でのボランティア活動の意欲と保健事業利用・ソーシャルキャピタルとの関連. 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会(2022年1月)、中谷芳美、 <u>坂部敬子</u> .	
2) 地域在住高齢者の生きがいの有無と関連する要因: 高齢者の年齢を3区分した分析. 第81回日本公衆衛生学会総会(2022年10月)、中谷芳美、 <u>坂部敬子</u> .	
3) 地域で生活する高齢者の地域づくり活動への参加意思と関連する要因: 高齢者の年齢を3区分した分析. 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会(2022年12月)、中谷芳美、 <u>坂部敬子</u> .	
	【3件】
⑤その他の公表実績	【 冊】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

<ul style="list-style-type: none">・福井県看護協会保健師職能委員（R3.4～現在に至る）・令和4年度金津高校課題探究活動年間アドバイザー・災害時の福祉避難所等への人材派遣（協議中）に関する連絡窓口（R4.7～）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
看護学科総務係（R元.4～現在に至る） 看護福祉学部情報処理演習室管理担当（R元.4～現在に至る） 看護協会施設代表者（R元.4～現在に至る）
(3)学内行事への参加
【全学ミーティング】 ・R4年度第1回全学ミーティング（4.27） 【オープンキャンパス】 ・担当領域の動画作成 【研修会】 ・情報セキュリティ研修会（8.5） 【入試関連】 ・入試説明会：福井商業高校（9.7） 【創立30周年記念シンポジウム】 ・記念式典、シンポジウム参加（10.8） 【新型コロナワクチン接種関連】 ・ワクチン接種 薬剤調製・経過観察 [職域]（12.16）
(4)その他、自発的活動など
・3職能合同研修会「災害時における看護職の役割と職能の連携について」（12.7） ・保健師職能集会・研修会「保健師の人材育成について」（2.26）